

8/21 喜植

## 新型コロナ重症化リスク者 厚労省 致死率は5.6倍

新型コロナウイルス感染症では、持病や肥満、喫煙などの重症化リスク要因を持つている人ほど致死率も高くなっていることが厚生労働省の集計結果でわかれました。25日の同省専門家組織で報告されました。

感染者の情報を一元的に管理するシステム「HER-SYS（ハーシス）」のデータをもとに、4～6月に感染が報告された約32万人のうち、糖尿病や高血圧症、肥満、喫煙など九つの重症化リスク要因の有無が記載されていた約10万人について致死率を調べました。

重症化リスク要因がない人の致死率が0・41%だったのに対し、一つ以上ある人の致死率は2・28%と約5・6倍でした。致死率は要因が多いほど高くなり、一つの人は1・38%、二つの人には3・80%、三つの人には5・20%などとなっています。

保有要因別に致死率をみると、慢性腎臓病が14%、慢性閉塞性肺疾患が10・2%、がんが8・35%、免疫抑制が7・54%、糖尿病が4・76%、高血圧症が4・32%、脂質異常症が3・3%、肥満が1・55%、喫煙が0・99%でした。

65歳以上の高齢者は、他の年代と比較して致死率が高くなり、重症化リスク要因がある人で6・89%、一つもない人でも4・62%となりました。